

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4097900031		
法人名	株式会社 ジャントウ		
事業所名	ケアホーム和楽園		
所在地	三潞郡大木町絵下古賀284-1		
自己評価作成日	平成28年5月12日	評価結果確定日	平成28年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年6月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

閑静な田園地帯に立地し、四季折々の季節を感じ取れる地域です。利用者様との共同作業で、菜園にて栽培している無農薬野菜を食事に提供しています。菜園の指導を通じ地域住民の方々との交流を図っています。利用者様の望む暮らし作りを心がけ、その人らしい人生を送っていただけるように支援・ケアしていくことが使命と感じ仕事させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

6月に「コスモピア大木」から施設名を変え「ケアホーム和楽園」となった。外壁の塗り替えと、玄関アプローチを新たにスロープにしたことで車いすでの出入りも楽になっている。施設横には菜園もあり、季節折々の野菜などを栽培しており、近隣の方の差し入れや、こちらからのおすそ分けにも使い、調理にも提供して喜ばれている。菜園の世話を通して地域交流が生まれ、入居者にもお世話や下ごしらえを手伝ってもらうことで生活リハにもつながっている。施設内の移動もエレベーターではなく階段を使って能力の維持も図る。3年前に法人変更あったが、地域との関係も良好で地域行事への参加や、お声掛けも頂いている。施設長が理学療法士でもあることで、日々のレクにリハビリ的な要素を取り入れたり、敬老会で地域の方を招いて腰痛予防体操をしたり、指導も行った。今後もますます地域との交流を深めて協力的な発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「常に思いやりの心を持ち、地域との交流の中で、地域社会に信頼される事業を目指します」との理念を掲げ、日々のケアやサービスを理念に基づくように努力している。	理念は以前からのものを継続して掲げており、日々の申し送り時に唱和し、玄関と事務所内に掲示もしている。理念にある「思いやりの心～」をもとに、職員の対応を注意したり、面談の際に自己評価で振り返ることもある。	理念をもとにして、事業所全体や個人の目標を立てることで、より実践的な活動につなげることを検討してはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じて、地域行事の年間予定表を頂き、利用者様と職員共々できる限り参加するようにしている。また、菜園でできた作物は地域の方々に配布しております。	法人変更があっても、近隣住民との交流を働きかけ、徐々に付き合いも良好になってきている。町内会に加入しており、回覧板によって地域情報を頂く。地域でのお祭りには出られる入居者も一緒に参加し、昨年の敬老会は地域の方も招いて腰痛予防体操なども行った。	現在は内部体制の関係で難しいが、今後は公民館などを使って、体操や認知症予防に関して情報発信などを行ったり、事業所主体の行事などで地域への認知度や交流をさらに深めて行ってはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室として、敬老の日に地域住民の皆様に参加していただき、認知症の方々の接し方や介護方法などの説明を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に1度の割合で開催し、当ホームの活動状況・運営報告等を報告し、地域の方々・利用者様のご家族様からの意見・アドバイスをいただいている。その意見を基に理念に沿ったサービスの向上につなげていけるように努力している。	会議には役員職員、区長、民生委員、地域住民、家族などが参加されている。家族は代表として来られる方のみ案内している。会議ではヒヤリハット報告や研修報告、行事報告などを行い、参加者から地域情報など頂くこともある。	議事録を閲覧用に公開することで、取り組みを知ってもらってはどうか。また、家族には状況を問わず案内を出してもよいのではないだろうか。食事会や、避難訓練など催しの際に同日開催することで日頃の様子を見てもらったり会議に変化を加えてもよいのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター主催の介護支援専門員連絡会に参加し情報交換を行っている。	運営推進会議には基本的に毎回役場の職員にも来てもらっている。以前入居されていた方の件で役場との話し合いもあったが、無事に解決した。役場も近いので、日頃からも訪問したり、電話によっても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会に参加し認知を深めるようにしている。	行政などが主催する外部研修に参加し、その後事業所内での伝達、資料回覧も行っている。玄関施錠はなくセンサーで管理し、施設内の移動も自由に行える。不穏になる方には見守りや付き添いで対応し、無理に引き止めないようにしている。以前は四点柵の利用もあったが、同意、支援経過、見直しの上解消された。言葉かけも注意しながら行う。	

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束については、研修会に参加し認知を深めるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の支援体制ができるよう勉強会・研修会に参加していきたい。	今までも制度利用される方はいなかったが、外部研修の参加、内部での勉強会も行い理解を進めている。支援や対応が必要な際には外部の関係機関などとも相談している。	迅速な対応が求められる場合などに備えて、制度資料やパンフレットなどの準備を進められてはどうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、責任者がご本人様・ご家族様に十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書箱を設け、利用者様・ご家族様のご意見を頂けるようにしている。また、貴重なご意見をいただいた場合には、管理者・責任者会議を行い反映できるようにしている。	家族からの意見は面会時に頂くことが多く、来られない際などは電話して報告も行う。個人的な要望を頂くことが多く、その際は職員で話し合ってから毎月1回の請求時にお手紙を送り、その際に入居者の絵手紙を添付して報告につなげている。	家族が参加しやすいような時間帯の家族会や、行事などで交流の場をもったり、家族アンケートや満足度調査によって意見の引き出しにつなげてほしいのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議という場は特別設けておらず、随時意見を述べてもらえるようにしている。	職員が集まる機会としては、毎月の勉強会と、毎朝の申し送りがあり、入居者の情報共有は随時ミニカンファのような形で日頃から話し合いを行っている。代表も現場にいたることが多いため、気づいたときに個別でも相談や提案をすることが出来る。職員からの意見もあげやすく迅速な対応にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々研修に行ってもらったり、勉強会を開いたりして能力UPの場を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	応募の連絡があれば、全て面接を行うようにしている。その選考基準については、労働意欲が高ければ、年齢・性別に拘わらず採用している。	職員の入れ替わりもあり、新しく、若い男性の職員も増え、今は20～70歳代まで幅広い職員が活躍している。10年以上勤める職員も数名おり、それぞれの能力や経験を活かして協力し合っている。無資格で入社してそのあと資格取得する場合もある。研修案内もあり、希望すれば勤務扱いで参加することも出来る。	

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協会の実施する研修等を利用していききたい。	昨年は権利擁護に関する研修を受けたが、人権に関する研修は受けなかった。今年度に関しては8月に外部研修を受講予定である。毎月行う勉強会の中でも年に1回は人権学習を行っている。事業所内に倫理綱領も掲示しており、意識づけにつなげている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で全員に社外の研修会に参加していただくようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や連絡会を通して、同業者との意見交換等の機会を増やしていきたい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員・管理者が本人・ご家族に生活歴・要望等を聞き取り、ホームでの生活に不安なく過ごせるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意見・要望はなんでも話していただくように配慮し、納得されるサービスの提供に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見・要望の聞き取りからサービスの情報を提供し、本人様にとって必要なサービスの提供を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園や買い物等を通じ、できるだけ自宅に住んでいるという感じで生活していただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、連絡を密にし本人らしい生活をしていただくよう配慮している。		

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人の方々には、来訪の際遠慮なく面会できるように働きかけている。	家族以外にも、知人や友人の来訪を受ける方がおり、家族が友人を連れてくる場合もある。4月から毎月指導を受けて絵手紙を作っており、家族に郵送して控えも作品として飾っている。家族に連れ出してもらって馴染みの美容室に行ったり通院や食事に行くこともある。一時帰宅や外泊する方もおり、将来的には全員が正月に帰れるようにしていきたいと考えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の生活ペースを踏まえ、たうえで、共同作業やレクリエーション等を行うことにより関わり合いを支援するようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所されてもお見舞いや連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の意向を汲み取り、ご家族様に相談し、ニーズの把握に努めている。	主にケアマネが担当し、入居時に家族から独自様式の「らしさシート」を使って出生時から入居時までの状況や、交友関係根拠生活史の聞き取りを行っている。必要な方にはセンター方式の一部を使用することもある。アセスメントを半年ごとに振り返り、基本情報も一年で見直しを行っている。意思疎通の難しい方は日頃の様子や行動の観察から性格を読み取って対応につなげている。	介護更新時の調査情報や医師意見書も役場に情報照会することで、アセスメント資料として活用されてはどうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・介護支援専門員での情報交換を行い、状況把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りをもとに、各職員で状況把握を行い、個々の役割支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向を反映し、本人らしく暮らしていけるような介護計画の作成を心掛けている。	プラン作成は主にケアマネが担当し、毎月のモニタリング、6か月ごとに見直しも行っている。毎日記録する「介護計画実践表」も使って、職員間でのプラン目標の共有、日々のプラン実践にもつなげている。プラン見直し時に担当者会議を開き、必要がある方には理学療法士でもある施設長も関わることもある。	モニタリング表や計画実践表に記録者の名前を明記することで、担当者を明確にしてはどうか。また、担当者会議も介護更新時などは家族や他職種からの意見を取り入れることを検討されてもいいのではないか。

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況は、記録シートに記載し、計画の変更・実践に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後要望があればサービスの多機能化は検討していく予定である。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の行事などには積極的に参加し、個人の有する能力を損なわないよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医との往診契約を結ばせていただいている。	以前は入居者ごとにバラバラだったが、3年前から提携医も変わり、現在は看護師と共に訪問診療を受けられるようになり、負担も軽くなった。提携病院に専門科もあるため、通院することも少なくなったが、希望があれば家族支援により受診することも出来る。情報は随時共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを行い、健康状態の把握に努めている。また平常と少しでも変化があれば、看護師が協力医に連絡するようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、連絡を密にし、今後の対応や現状把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、協力医を交え重度化した時の対処の仕方を相談し、チームケアの支援に取り組んでいる。	看取りの指針を定めており、契約時に提携医と一緒に説明を行い、重度化の際にも改めて説明して同意を得ている。最近でも看取りを希望された方がおり、事業所内で看取りを行った。提携医も協力的で夜間緊急時にも訪問診療してもらおうことが出来る。職員に看護師もおり、必要時には医師とも連絡を取りながら対応に努めている。今後も希望があればできる限り受け入れていく考えである。	今後の対応に備えて、ターミナルケアの勉強会や研修なども継続的に行われていくことが期待される。

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを作成し、常時閲覧できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所のルート確認を含め、避難訓練を実施するようにしている。	年に2回避難訓練を行い、うち1回は消防署にも立ち会ってもらって総合訓練をしている。自主訓練時は夜間想定で行い民生員に参加してもらったこともあった。8月に近くの公民館での地域防災が計画されており職員が参加予定である。昨年自治体から防災ラジオも配備された。備蓄物も確保している。2階からの避難も両側に階段がありどちらかで避難が可能である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を実施し、人格の尊重やプライバシーの保護に努めている。	社内勉強会でプライバシー保護に関して学習し、言葉遣いや、入浴、排泄時の羞恥心への配慮に関しても気を付けている。親しみやすさと馴れ馴れしさが混同しないように、気づいた場合はすぐに注意している。写真利用に関しては事業所内での利用として説明、同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意向を汲み取り、ご家族様に相談し、ニーズの把握に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の意向を尊重するケアの実践を行うように努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の際には、本人の希望に沿った髪形にカットしていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の要介助者以外の方々には、後片付けを実施してもらっている。家庭菜園で採れた野菜の皮むきや処理なども手伝ってもらっている。	代表が調理資格も持っており、外部の管理栄養士に作ってもらったメニューを元に、菜園で採れた収穫物や差し入れなどを使って季節の物を取り入れた料理を提供している。入居者も下ごしらえや皿ふきなど手伝えることを手伝ってもらい、誕生会では全員が1階ホールに集まってお祝いしている。職員も同じものを一緒に食べ、感想や食べたい物も聞き取って反映もさせている。	

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人のチェック表から適切な摂取量の把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の口腔ケアを実施しており、指導を仰いでいる。日々の口腔ケアは職員付添いの元、出来る限り本人にやってもらうように支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、職員の声掛け・誘導により、トイレでの排泄を実施している。	ユニットごとの排泄チェック表があり、夜間はポータブルトイレやおむつでの対応もあるが、日中は2人介助でもトイレでの排泄を原則としている。負担軽減のため、パットの大きさなどもそれぞれに合わせた提案に努めている。便秘の際も医師の指示を仰ぎながらチェック表をもとに対応を行う。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の管理を行っており、食後の運動にも十分配慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜日・金曜日の2回が定期入浴日とさせてもらっているが、本人の状態に合わせて他の日にも入浴可能である。	1Fは大浴場、2Fはユニットバスがあり、通常は1Fの大浴場で2~3人が一緒に入浴している。現在は週3回、昼からの入浴をしてもらい、汚染があった際などは個浴での対応も行い、リフト浴の利用も可能である。一緒に入ってもそれぞれのタイミングで時間も希望を聞いている。シャンプーも備え付けはあるが、要望で個別の物を使っている。拒まれた際も無理強いせず曜日を換えたり個別での対応で対応している。皮膚観察も看護師と一緒にやっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の習慣を把握し、安心・安楽なケアの実践に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局から説明していただくようにしており、日々の変化はチェック表に記録するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やレクリエーションを通して、気分転換や残存機能の低下防止に努めている。		

H28自己・外部評価表(ケアホーム和楽園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物以外にも本人の要望があれば出かけていくようにしている。	入居者それぞれ個別に、欲しいものがある時は買い物にもお連れしている。気候の良い時期は近隣の散歩にも行きやすく、週2, 3回程度は外出機会ももっている。外出行事としては季節ごとの花見で桜や紫陽花、秋桜などを見に行ったり、地元のお祭りにも行っている。外食には個別で対応している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持していらっしゃる利用者様はいないが、要望があれば実施できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し、いつでも連絡していただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者様の自作の絵画を飾るなどしている。	床はフローリング張り、壁やドアは木材を活かした内装、木の温かみを感じられる造りである。トイレは1か所だが、3つが並んで設置され、待たされることもない。リビングからは田畑の様子が望め、季節感のある自然の移ろいが間近にある。中央に机を並べてつけており、一つの大きな机に皆が集まっている。居室も全てリビングに面しており、見守りもしやすい。業者に頼んでワックスも綺麗にかけられていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間を設け、テレビや雑談できるよう工夫している。また、玄関から花壇を眺めたりできるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染のものは入居時にご家族様に持参していただけるようにしている。	介護ベッドが備え付けられており、家具調のポータブルトイレも必要があれば提供している。各フロアに畳敷の和室があり、敷居に戸がある夫婦利用居室も用意されている。手すりも各所につけられており、伝い歩きもし易い。戸口には似顔絵がかけられたり、季節の造花も飾られて華やかにされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の自立度の改善のための手すりや物品配置に考慮している。		